

## 労働図書館新着情報

## 今月の図書紹介

<p>①小平龍四郎著『企業の真価を問う グローバル・コーポレートガバナンス』日本経済新聞出版社 (212頁, 四六判)</p> <p>かつて日本では、メインバンクや労働組合が企業行動に影響を与えた。財閥や系列という結束のなかで企業は互いに支え合い、監視し合っていた。しかし、バブル崩壊を受け、メインバンクの地位は衰退し、産業構造の変化とともに労働組合の地位も低下。その後の「統治」の空白を埋めたのは外国人投資家、やがて国内機関投資家、個人投資家など今では誰もが潜在的な株主となっている。日本経済新聞に入社以来、証券市場を取材してきた著者が、内外の豊富な事例を俯瞰しつつ、企業統治の新たな胎動を論説。現在のガバナンス改革は当局主導ではなく、市場型だと訴える。市場の声を傾けグッドガバナンスを構築した企業だけが競争に勝ち残ることができるという。</p>	<p>③おおたとしまさ著『ルポ 父親たちの葛藤』PHP研究所 (234頁, 新書判)</p> <p>なぜ男性の「家庭進出」がうまく進まないのか。著者はイクメンブームの盛り上げ方に短絡的な部分があったと問いかける。そのうえで、仕事と家庭の板ばさみになっている男性の現状を数多くのデータとともに分析。悩んでいる男性の生の声に耳を傾ける一方、妻たちと会社側の本音も聞き出している。これらを踏まえ、最終章では男性たちが板ばさみの状況をうまく切り抜け、結果として少しずつ社会を変えていくためのヒントを提唱。具体的には、①仕事にかかる時間やエネルギーを一時的に育児にシフトする②夫婦間の負担はあえて不平等にする③家族時間は量より質を重視する——などの8つの心得を紹介。いま必要なのは「頑張る」よりも「手放す」勇気だと主張する。</p>
<p>②山極清子著『女性活躍の推進』経団連出版 (205頁, 四六判)</p> <p>日本で女性管理職登用を阻害する主な要因は、M字型就労と表裏一体の男性の長期雇用を前提とした日本の雇用慣行にあると断言。この慣行がもたらす恒常的な長時間労働と固定的性別役割分担の常態化により、女性だけが仕事と家事・育児の二重負担を抱えることになる。日本の雇用慣行からの脱却に向け、欧米先進諸国がジェンダー・ダイバーシティ・マネジメントを導入し、女性の管理職・役員登用によって経済発展の潜在力を顕在化させたことを指摘。そのうえで、社員として長く関わった資生堂での女性の管理職登用に向けたプロセス・イノベーションを詳細に紹介する。ジェンダー平等とダイバーシティ、ワーク・ライフ・バランスの統合・推進の重要性を強調。</p>	<p>④イアン・ゲートリー著『通勤の社会史』太田出版 (350頁, 四六判)</p> <p>鉄道輸送の拡大で遠隔地の自宅から職場へ通う史上初の通勤が始まったのが19世紀。以来、住居や職場を選択できる自由をもたらした通勤は革新的な行為であり、都市と郊外を進展させ、人々の生活様式を一変させた。しかし、通勤が憧れの対象だった当時と比べて、現在では心身ともにストレスのもとと言われている。果たしてそれは真実なのか。さらに「今後、通勤はなくなるのか」「理想的な通勤システムとはどのようなものか」などを本書は探る。鉄道、車、自転車、オートバイなどあらゆる通勤の歴史と発展、現在の諸問題、将来の通勤形態も考察。「通勤大国」とされる日本の現状をはじめ、世界各国の通勤事情もカバーし、毎日5億人が通勤する理由を解明。</p>

(日本十進分類[NDC]順に掲載)

## 主な受け入れ図書

(2016年8—9月労働図書館受け入れ)

- |   |   |
|---|---|
| ⑤井上智洋著『人工知能と経済の未来』文藝春秋(249頁, 新書判)                 | ⑩井手英策著『18歳からの格差論』東洋経済新報社(112頁, A5判)             |
| ⑥神田昌典他著『未来から選ばれる働き方』PHP研究所(228頁, 新書判)             | ⑪増田明利著『ホープレス労働』労働開発研究会(322頁, 四六判)               |
| ⑦杉村昌昭他著『既成概念をぶち壊せ!』晃洋書房(ix+207頁, 四六判)             | ⑫山本寛編著『働く人のキャリアの停滞』創成社(xii+258頁, A5判)           |
| ⑧朝元照雄他編著『台湾の企業と企業家』九州大学出版会(xi+239頁, A5判)          | ⑬伍賀借子著『女・オルグ記』ドメス出版(155頁, 四六判)                  |
| ⑨黄完晟著『東アジアにおける中小企業のグローバル展開』九州大学出版会(iii+264頁, A5判) | ⑭奥井禮喜著『帝国ホテルに働くということ』ミネルヴァ書房(xv+276+iv+4頁, A5判) |

労働図書館 <http://www.jil.go.jp/lib/index.html>

当図書館は、社会科学関係書を中心に和書118,275冊、洋書30,519冊、和洋の製本雑誌25,332冊を所蔵している日本有数の労働関係の専門図書館です。

労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これらで、蔵書の半数以上を占めています。このほかにも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌(285種)、洋雑誌(120種)、紀要(510種)、組合機関誌・紙を受け入れています。

特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、経団連など経営者団体の刊行物や民間研究機関刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特に国際労働機関(ILO)総会の議事録や経済協力開発機構(OECD)の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションとしては、戦前・戦後を通して歴史的に貴重な労働組合の原資料を収集、提供しています。

所在地: 〒177-8502 東京都練馬区上石神井 4-8-23

開館時間: 9:30 ~ 17:00

休館日: 土曜日、日曜日、国民の祝日、年末年始(12月28日~1月4日)、その他

電話番号: 03(5991)5032 / FAX: 03(5991)5659

利用資格: どなたでもご自由にご利用できます

貸出: 和書・洋書とも2週間、5冊までです

※身分証明書(運転免許証、健康保険証など)をお持ちください

レファレンス・サービス: 図書資料の所在調査などのサービスを行っています

